



目次

- (1) バリアフリー推進ネットワークからのお知らせ  
交通バリアフリー推進の集いのお知らせ  
交通バリアフリー推進セミナー報告書配布について
- (2) ネットワーク参加団体からのお知らせ  
21世紀高齢社会の都市バリアフリー化の課題の配布について（日本政策投資銀行）  
2002年第6回DPI世界会議札幌大会への協力について（東京ハンディキャブ連絡会）  
講演会「だれもが自由に安全に移動できる社会を目指して」（東京ハンディキャブ連絡会）  
研修会「移動送迎支援活動の広がりと必要性」道路運送法80条で何が問題になっているのか？  
（東京ハンディキャブ連絡会）
- (3) エコモからのお知らせ  
平成14年度交通バリアフリー活動に対する助成について  
情報提供マニュアル事業を実施について  
らくらくおでかけネットについて  
公共交通ターミナルのバリアフリー度評価について
- (4) 行政からのお知らせ  
交通バリアフリー法基本構想策定状況  
交通バリアフリー技術企画調査研究委員会（電動スクーター関係）
- (5) 各種催し物のお知らせ  
(社)自動車技術会関東支部テクニカルフォーラム2002「自動車とユニバーサルデザイン」  
国際福祉機器展 H.C.R.2002  
勉強会「火災などから聴覚障害者を守るために」-火災警報伝達方法のあり方について-  
土木学会全国大会第57回年次学術講演会  
第6回DPI世界会議  
第26回土木計画学研究発表会（秋）大会  
第37回日本都市計画学会 学術研究論文発表会  
国際ユニバーサルデザイン会議2002
- (6) その他  
書籍に関して  
記事募集中  
お願い（必ずお読みください。）  
・転送先について  
・送付先について

**コラム**

---

## (1) バリアフリー推進ネットワークからのお知らせ

### 交通バリアフリー推進の集いのお知らせ

交通バリアフリー法が施行されてから、まもなく2年が経過しようとしています。施行後5年の見直しも視野に、交通バリアフリーの推進のために現在何が問題になっているのか、今後取り組むべき重点課題は何かについて考えてみたいと思います。

また、交通バリアフリーの一層の推進を図るために今後の範となる優秀事例発表や、ネットワーク参加団体の情報交換と相互交流のための活動事例発表等も合わせて行いたいと考えております。

詳細が決定次第、ご案内いたします。

日時：11月15日（水） 13:00～16:45

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター 渋谷区代々木神園町 3-1

参加費：無料

内容：13:00 開会挨拶

13:10 来賓挨拶

13:20 バリアフリー優秀事例感謝状贈呈・事例発表

14:00 ネットワーク参加団体活動事例発表（2～3団体 各15分程度）

15:00 パネルディスカッション

「これからの交通バリアフリーの推進に如何に取り組むか」

行政、学識経験者、障害者等がパネラーとして参加。会場との意見交換を含む。

16:45 終了

17:00 交流会（ティーパーティ）

### 交通バリアフリー推進セミナー報告書配布について

先月号でもお知らせしましたが、昨年1年間で、全国10カ所で開催しました交通バリアフリー推進セミナーの報告書を作成しました。ご希望の方は、ご連絡ください。

## (2) ネットワーク参加団体からのお知らせ

### 21世紀高齢社会の都市バリアフリー化の課題の配布について（日本政策投資銀行）

日本政策投資銀行では、「21世紀高齢社会の都市バリアフリー化の課題 シームレスなバリアフリー都市実現の方策」に関する報告書を平成14年3月に作成いたしました。内容としては、都市バリアフリー化に対する現状と課題に関してまとめています。詳細に関するお問い合わせと、報告書をご希望の方は、日本政策投資銀行都市開発部都市バリアフリー化研究チーム TEL03-3244-1710もしくは、FAX03-3271-8464まで、ご連絡ください。

### 2002年第6回DPI世界会議札幌大会への協力について（東京ハンディキャップ連絡会）

2002年10月15～18日に北海道札幌市において、世界各国から約2000名の障害のある方々等が集まりDPI札幌大会が開かれます。この大会への海外からの参加者が経由する成田空港～羽田空港間を中心とする送迎について、東京ハンディキャップ連絡会では、埼玉県移送サービスネットワークと横浜移動サービス協議会の3団体で共同してあたります。

先日3団体の代表とDPI事務局との話し合いが行われ、概要が決定いたしましたので、お知らせいたします。

#### 1. 移送サービスの対応期間・対応方法

- ・10月12～14日（成田空港～羽田空港）と19～20日（羽田空港～成田空港）を中心に対応する。
- ・大会前に来日する世界評議員については、別途主催者からの情報提供により個別対応する。
- ・大会開催期間中（10月15～18日）については、主催者からの特別の求めがない限り対応しない。
- ・原則としてリフト付き普通車による対応とするが、人数が集中した場合は移送サービス団体の所有するリフト付きバスを活用することも検討する。

#### 2. 運行経費

- ・成田空港～羽田空港間の運行経費（利用料）は協力運行団体共通とし、各空港までの回送料を設定

して、団体毎の走行距離の違いに対処する。

・回送料については埼玉・東京・横浜とも平均値を概算して、それを回送料とする。

### 3.その他

・各空港での誘導・介助ボランティアを募集する。地元のボランティアセンター及び各団体で募集を行う。

実際の送迎スケジュールについては、今後調整いたしますが、期間中送迎にご協力していただける団体は、東京ハンディキャブ連絡会までご連絡をお願いいたします。

送迎協力についてのお問合せは、東京ハンディキャブ連絡会または、埼玉県移送サービスネットワーク、横浜移動サービス協議会までお願いいたします。

### 講演会「だれもが自由に安全に移動できる社会を目指して」

東京都立大学大学院都市科学研究科教授であり、障害者・高齢者のデザインと交通システムに関して一貫した研究を続けておりSTサービスやバス、コミュニティバスの研究など現在の日本社会における交通システムに大きく関わっております秋山先生をお招きして、今後の鳳来町に対する交通システムを取り上げ社会福祉の改革期である現在から未来に向けてどうあるべきかを講演いただきます。

日 時 2002年9月8日 13:00~15:00

会 場 鳳来町開発センター3F大会議室 愛知県設楽郡鳳来町長篠字下り笹 1-2

申込み・問合せ先 愛知県ハンディキャブ連絡会 愛知県名古屋市昭和区恵方町2-5 〒466-0036

TEL052-851-5240 FAX052-852-4810

### 研修会「移動送迎支援活動の広がりと必要性」道路運送法80条で何が問題になっているのか？

高齢者や障害者などが外出する支援として、移動・送迎サービス団体が増えています。しかし、どこでも気軽に外出することを支援しているこの活動が、道路運送法80条との兼ね合いによって問題になることがあり、サービスを提供している団体にとっても悩みの種となっているのが現状です。この研修会では道路運送法80条で何が問題となっているのかを制度をきちんと理解した上で、日頃の活動について検証していくことを目的としています。

日 時 9月14日(土) 13:30~16:30

会 場 大阪社会福祉指導センター研修室5 大阪府大阪市中央区中町1-1-54

大阪市営地下鉄谷町線・鶴見緑地線 谷町六丁目駅下車4号出口より徒歩5分

定 員 80名(先着順)

参加費 無料

内 容 道路運送法80条の説明

講義「移動・送迎サービスの必要性」安藤雄太氏(東京ボランティア・市民活動センター副所長)

パネルディスカッション「移動・送迎支援サービスの広がりと必要性

- 道路運送法80条で何が問題になっているのか? -」

コーディネーター 柿久保浩次氏(自立支援センター・OSAKA)

パネラー 安藤 雄太氏、森 茂輝氏(大阪府ボランティア・市民活動センター所長)

申込み・問合せ先 関西STS連絡会

〒556-0014 大阪府大阪市浪速区敷津東3-6-10 (特)日常生活支援ネットワーク内

TEL&FAX 06-4396-9189

### (3) エコモからのお知らせ

平成14年度交通バリアフリー活動に対する助成について

当財団は、これからの高齢社会の到来に備え、また障害者の社会参加を促進するため、高齢者や障害のある方々の移動円滑化を促進するボランティア団体等の行う交通バリアフリー活動に対して、その活動資金の一部について助成していくことにいたしました。詳細や応募方法については、当財団のホームページ(<http://www.ecomo.or.jp/>)をご覧ください。

交通機関の情報提供についてご意見をお寄せください

視覚障害者や聴覚障害者等の情報制約者に対する鉄道利用に関わる交通情報の提供についての調査を進めております。現在の情報提供の実態把握、及びその課題を明らかにし、円滑に交通機関を利用できることを目標とする情報提供に関する各交通事業者共通のマニュアルの作成を目指しております。

今まで駅をご利用になった際に、お困りになったこと、お気づきになったこと、よかったこと等がございましたら、ご意見や路線名や駅名等をお寄せください。ご意見を頂く際は、ご所属、お名前、連絡先(住所、電話番号、FAX番号、E-mail等)をお書きの上、郵送、メール:ecomomail@ecomomail.or.jp、FAX:03-3221-6674までお送りください。

らくらくおでかけネット

ご存じですか。らくらくおでかけネット(交通バリアフリー情報提供システム)を本年1月から開始しております。これは、インターネットや携帯端末を使って、エレベーターの設置状況、身体障害者対応型トイレの設置状況などをバリアフリーの最適なルートが探索できます。1月の運用開始からこれまで(6月30日)220,498件(1,404件/1日)のアクセスがありました。皆様のご意見をお待ちしております。

アドレス:(パソコン版)<http://ecomomail.mri.co.jp/rakuraku/index/>  
(携帯版=i-mode,j-sky)<http://ecomomail.mri.co.jp/rakuraku/mobile/>  
(携帯版=EZ-web)[http://ecomomail.mri.co.jp/rakuraku/mobile\\_ez/](http://ecomomail.mri.co.jp/rakuraku/mobile_ez/)

公共交通ターミナルのバリアフリー度評価について

前回のメールマガジンにて「公共交通ターミナルのバリアフリー度評価に関する簡易評価マニュアル」を公開した旨のお知らせを致しました。

本評価マニュアルは、あくまでも地域のボランティア、市民グループ、学生の皆様などが自主的に評価に取り組みまれる時(地域の基本構想作成時などが考えられます)にお役立ていただく方法として、提供させていただいておりますので、是非ともご自由にお使いいただければと思います。なお、弊社団体より、評価を行う旨の依頼を皆様に行っているものではありませんので、誤解のないよう、よろしくお願いたします。

#### (4) 行政からのお知らせ

交通バリアフリー法基本構想策定状況

基本構想を作成済みの市区町村は、下記のとおりです。

福岡県福岡市、北海道室蘭市、広島県呉市、千葉県千葉市、山梨県石和町、大阪府守口市、鳥取県鳥取市、新潟県亀田町、大阪府交野市、大阪府八尾市、千葉県船橋市、北海道千歳市、大阪府堺市、福岡県大牟田市、東京都荒川区、富山県小杉町、福岡県福岡市、兵庫県明石市、香川県丸亀市、石川県金沢市、北海道恵庭市、埼玉県熊谷市、神奈川県相模原市、滋賀県守山市、大阪府河内長野市、広島県広島市、神奈川県秦野市、福岡県北九州市、大阪府豊中市、長崎県佐世保市

詳細に関しては、国土交通省のホームページをご覧ください。

[http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha02/01/010813\\_.html](http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha02/01/010813_.html)

交通バリアフリー技術企画調査研究委員会(電動スクーター関係)

8月2日に、第1回委員会(委員長:秋山哲男東京都立大学大学院都市科学研究科教授)が開催され、公共交通機関における電動スクーターの取り扱いについて技術面、運用面での環境整備を行うべく検討を開始しました。今後は、事業者や利用者に対するヒアリング等を踏まえ、検討を行い、平成15年3月末を目途にとりまとめていくとのことです。

詳細に関しては、国土交通省のホームページをご覧ください。

[http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha02/01/010802\\_2\\_.html](http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha02/01/010802_2_.html)

#### (5) 各種催し物のお知らせ

(社)自動車技術会関東支部テクニカルフォーラム2002「自動車とユニバーサルデザイン」

交通バリアフリー法の制定やハートビル法の見直しなど、最近バリアフリーという言葉が一般にも定着するようになってきていますが、さらに進んだ概念として「ユニバーサルデザイン(以下UD)」があります。UDは、故ロンメイス氏が提唱されたもので7つの原則からなりますが、具体的なものに適用して考えると、わかりにくいことも多いです。そこで、本フォーラムでは、UDに関する専門家を招き、講演・討論を行い、UDに関する理解を深めることを目的として企画しました。題材として自動車をあげていますが、UDの考え方、プロダクトデザインでのUDなどについての興味深い話を聞く良い機会でありますので、一般からも多くの参加者を募ります。故ロンメイス氏から直接の教えを授かった世界的に有名なお二人のご講演と、新世紀のモビリティに関する数々の取り組みをされている大学教授の話は、大変有意義なものであると確信いたします。また、講演者の著書を参加者特価で限定数販売致しますので、この機会にお求め下さい。

日時 2002年9月9日(月)13:00~17:00

会場 文京シビックセンター・シビックホール2F小ホール 東京都文京区春日1-6-21  
営団地下鉄丸の内線・南北線 後樂園駅下車5番出口  
都営地下鉄三田線・大江戸線 春日駅下車(文京シビックセンター前)

定員 200名

参加費 一般3,000円 学生 1,000円

内容 基調講演「ユニバーサル・デザインの意味と意義」川内美彦氏(アクセスプロジェクト主宰)  
講演1「移動環境をユニバーサルデザインの視点でとらえデザインする」  
中川聡氏(トライボッドデザイン代表)  
講演2「モビリティのユニバーサルデザイン」 蓮見孝氏(筑波大学教授)  
パネル討論 司会 鎌田実氏(東京大学教授)  
パネラー 川内氏、中川氏、蓮見氏、車両メーカー技術者

締切 2002年8月26日(月)

申込方法 1)行事名「自動車とUD」、2)氏名、3)勤務先及び所属部署、役職、4)連絡先  
住所・電話番号・FAX番号をご記入の上、下記いずれかによりお申込みください。

(1)往復ハガキによる申込:返信ハガキに送付先をご記入ください。

(2)FAXによる申込:送信先FAX番号を明記してください。参加証を送信します。

(3)E-mailによる申込:SND52611@nifty.com に送信ください。参加証はメールで返信します。

申込み・問合せ先 (社)自動車技術会関東支部

〒164-8602 東京都中野区南台5-24-15 カルソニックカンセイ(株)内  
TEL 03-5385-2900 FAX 03-5385-7575

国際福祉機器展 H.C.R.2002

16カ国610社 世界の福祉機器を総合展示。車いす、福祉車両、ベッド、入浴、トイレ、介護・  
日常生活用品、コミュニケーション、住宅改修

期間 9月10日(火)~12日(木) 10:00~17:00

会場 東京ビックサイト

問合せ先 (財)保健福祉広報協会 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル 〒100-8980  
TEL 03-3580-3052 FAX 03-5512-9798

勉強会「火災などから聴覚障害者を守るために」-火災警報伝達方法のあり方について-

共催者:社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会、ベター・コミュニケーション研究会

日時:9月20日(金曜日)、13時から16時半まで

会場:東京都中野区・東京都生協連会館・C会議室 (JR・地下鉄東西線中野駅下車7分)

会場の地図は<http://www.bcs33.com>に掲載しています。またはベター・コミュニケーション研究会へご請求下さい。

演題など:(敬称略)

ご挨拶:国会議員、厚生労働省、経済産業省他

体験談:「聴覚障害者の被災体験から」 人選中

問題提起：「聴覚障害者と消防法施行令などの問題点とこれまでの取り組み」

バリアフリー・アドバイザー 岩淵紀雄

報告：「米国のADA法・消防法と聴覚障害者関連条項について」

独立行政法人建築研究所首席研究員 古瀬 敏

参考発表：「聴覚障害者、ホテル用火災警報機のデモンストレーション」

東京医科歯科大学助手 宮崎信次

株式会社国際企画 小野 功

「高齢社会に対応した火災警報設備について」(社)日本火災報知機工業会 人選中

全体討論会

参加費：お一人5000円(当日払いは余席のある場合のみ6000円)、資料代込み

申し込み・問い合わせ先：ベター・コミュニケーション研究会(『いくお〜る』編集部)

〒164-0001 中野区中野3-33-3-5F

E-mail: equal@bcs.33.com FAX: 03-3382-6565 TEL: 03-3380-3324

土木学会全国大会第57回年次学術講演会

9月25日(水)、26日(木)、27日(金)の3日間

北海道大学(北海道札幌市北区北13条西8丁目)

第6回DPI世界会議 [http://homepage2.nifty.com/dpi-japan/6\\_wa/waj/waj\\_top.htm](http://homepage2.nifty.com/dpi-japan/6_wa/waj/waj_top.htm)

世界の障害当事者が、4年に1回各国に集い開催する会議です。2002年は、ポスト十年に向けて障害者の権利条約制定などをテーマに開催します。

10月15日(火)~18日(金)の4日間

道立体育総合センターきたえーる(北海道札幌市豊平区豊平5条11丁目)にて開催。

第12回RIアジア太平洋地域会議

同時開催 国際職業リハビリテーション研究大会、総合リハビリテーション研究大会

リハビリテーション分野の専門家を中心に参加者が集い、アジア太平洋地域各国で4年に1回開催されます。2002年は、DPI世界会議に引き続いて開催し、広く障害当事者の参加を得て、共同宣言の採択を行います。

10月21日(月)~23日(水)の3日間

国際障害者交流センター(大阪府堺市茶山台1-8-1) <http://www.big-i.jp/>

「アジア太平洋障害者の十年」推進キャンペーン2002

アジア太平洋地域各国の障害者関係NGOを中心に参加者が集い、1993年以来、毎年各国にて開催。NGOの立場から障害者の運動や施策を推進します。

10月21日(月)~23日(水) RI会議と同時開催

国際障害者交流センター(大阪府堺市茶山台1-8-1) <http://www.big-i.jp/>

第26回土木計画学研究発表会(秋)大会

11月2日(土)~4日(月)

岩手大学(盛岡市上田三丁目18-8)

第37回日本都市計画学会 学術研究論文発表会

11月16日(土)~17日(日)

大阪市立大学 杉本キャンパス(大阪市住吉区杉本3-3-138)

国際ユニバーサルデザイン会議2002 <http://www.ud2002.org/index-j.html>

11月30日~12月4日の5日間。パシフィック横浜にて開催。

連絡先：相鉄エージェンシー/パシフィック・コンベンション・サービス

TEL: 045-450-7003 E-mail: [info@ud2002.org](mailto:info@ud2002.org)

## (6) その他

書籍に関して

交通エコモ財団では、現在バリアフリー関係の書籍、パンフレットを発行しております。ご興味のある方は、当財団のホームページをご覧ください。

[http://www.ecomo.or.jp/barier\\_free/bari\\_f\\_index.html](http://www.ecomo.or.jp/barier_free/bari_f_index.html)

### 記事募集中!

現在、次号メールマガジンに掲載させて頂ける記事を募集中です。セミナーのお知らせや、活動報告、エッセイ等々何でも結構です。どしどしお寄せください。掲載をご希望の方は、メールかFAXでお送りください。

エッセイに関しましては、誠に申し訳ありませんが、掲載するか否かは編集担当に一任頂き、謝礼なし、とさせていただきます。

E-mail : ecomomail@ecomomail.or.jp FAX : 03-3221-6674

### お願い(必ずお読みください。)

#### ・転送先について

このメールマガジンを発刊してから、多くの方からお申し込みを頂いております。ありがとうございます。おそらく、お読み頂いている方から、更にその他のネットワークに転送して頂いていることがあると思います。現在、どの様な所まで、このメールマガジンをお読み頂いているかを把握したいと考えております。転送して頂いている方は、そのネットワーク、もしくは団体のお名前と人数をお教え頂ければと思います。 E-mail : ecomomail@ecomomail.or.jp FAX : 03-3221-6674

#### ・送付先について

このメールマガジンをなるべくE-mailで送付させて頂きたいと思っております。アドレスをお持ちの方はご連絡ください。 E-mail : ecomomail@ecomomail.or.jp FAX : 03-3221-6674

### コラム

厚生労働省は8日、身体障害者の生活実態に関する調査結果を発表した。電車やバスなどの交通機関の利用が不便と答えた障害者が全体の8.8%と、前回の(1996年)の調査での回答30.3%よりも大幅に改善。バリアフリーが進んでいることをうかがわせる結果となった。(時事通信ニュース 8月8日)

これは、エコモの関係している団体さんから配信を受けたものですが、この記事を見たとき、身体障害者の方々が実感としてそう思われていることに非常にうれしさを感じました。交通事業者の方にしてみれば自分たちのことです。何倍ものうれしさとお力が出てきたことだと思います。先日、東京田町の障害者センター付近で、都営の駅員さんが、遠くから車いす利用の方を介助してこられた。都営線の三田駅のエレベーターに乗るためだ。手前のエレベーターのない駅からこられたのか、定かではありませんが、交通事業者の方も、バリアフリーのハード面の整備が進んでないところは、接遇で積極的に取り組んでいるところが最近多く見られるようになりました。

話は変わりますが、フランスの地下鉄で、「券売所は障害者用の低いカウンターを作らない。」と交通事業者の方は話しておりましたが、それは障害者も健常者も一緒という考えから、低いカウンターはいらない。一般の方に合わせれば良いとのこと。なんだか意味が分かりません。身長が低い人が券売所の係員の顔が見えないところで乗車券を購入することがノーマライゼーションなのでしょうか、バリアフリーなのでしょうか、対価を得てサービスを提供するので、お客と視線を合わせて対応することが基本だと思いますが、如何でしょうか。

最近の日本の交通機関はすばらしく良くなってきています。まだ、すべての駅、すべての交通手段がバリアフリーになっていませんが、今の整備状況からするともう少しで多くのターミナルや車両は快適に移動しやすい環境になるのはそう遠い将来ではないという気がしてきます。

5, 6年前は、バリアフリーという言葉も、まだ知られておらず、当初1億円であった国の公共交通機関のバリアフリー施設整備予算も、ここ数年で2百倍近く伸びました。これからは、本当に必要なもの、必要でないものを見極め、整備を進めることが必要だと思います。

そのためにも、利用者の声が一番優先であり、機会あるごとに話し合い、検討し、関係者に提案すべきだと考えます。